

## 平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

機 関 名	神戸大学				
取 組 名 称	食農コープ教育による実践型人材の育成				
取組学部等	農学部				
申 請 区 分	教育方法の工夫改善を主とする取組				
整 理 番 号	A22038	申 請 の 形 態	単 独	取 組 期 間	3 年
申請の分類	体験活動	職業教育	地域活性化		
キーワード	食農コープ教育, 実践型人材, コミュニケーション, 地域連携, ナレッジマネジメントシステム				

### <選定理由>

本取組は、食と農の現場で問題解決に貢献できる人材を育成するという視点から、農学部の専門教育（理論）と現場での実践を統合し、理論と実践の反復により、教育の質を高めるという食農コープ教育の体系化と実践に取り組むプログラムとして高く評価できる。特に、篠山市を附属「農村」に見立て、そこで「社会実験型」プロジェクトとして演習などの正規の授業を実施することは、学生の実践的な問題解決能力の育成に加えて地域活性化という観点から見て、この取組の目的を達成することについては大きな意義を有するものである。また、大学がこの取組の意義を高く位置づけ、これまでの実績として、大学を挙げて総合型コープ教育を推進しており、今後の展開について具体的な計画を立てていることなど、取組の実現性についても高く評価できる。

ただし、プログラムの中に食農コープ教育の骨格となる授業（例として「食農コープ教育概論」など）や宿泊実習が見受けられないことについては、学生が食農コープ教育の理念や全体性の理解並びに実践力を十分に身につけられないことが危惧されるため、改善が望まれる。取組実施に当たっては、このことも検討しつつ、着実に成果を上げることを期待する。

取組の概要【1 ページ以内】

本取組は、食農コープ教育を体系的に確立し、食や農の現場における問題解決に貢献できる人材の育成を目的とする。食農コープ教育とは、食品加工、農業生産等の食と農に関する現場での職業体験・農業体験と、その問題解決を学ぶ教室での授業を統合する組織化された教育戦略をいう。

本取組では、生産者・生活者の視点からの問題解決を学ぶ食農コープ教育の質の向上に重点を置いている。食料生産、生物資源の開発利用、生物生態環境や国土の保全等、我が国の地域社会における様々な危機的な状況を解決するためには、変化する現場の状況を的確にとらえ、生産者・生活者の問題を発見し、学部教育で培ってきた専門性とを結び付け、問題を解決することができる実践型人材の育成が必要となっている。しかしながら、本学部では、「農場から食卓まで」をキーワードとした様々な教育に取り組んできたところであるが、基礎的素養となる生産者・生活者の視点から問題解決を学ぶ食農コープ教育は必ずしも達成できていない。

そのため、本取組においては、食と農の現場と大学とのコミュニケーションの充実を通じた食農コープ教育を確立し、教養と専門性を備えた社会に有意な実践型人材の育成を行うものである。

- I 志を高めるための動機付け**：食や農の現場で働くことへの志を高めるための動機付けとして、「キャリアデザイン論」を開設する。また、「食や農の現場等でのボランティア」への参加を促す。
- II 生産者・生活者の経験知を学ぶ体験活動**：年間を通じて農家や地域での様々なふれあいを通じた共同作業を行う「農業農村フィールド演習」を実施する。この体験活動を通じて、学生が生産者・生活者の経験知を学ぶことにより、問題解決の必要性を認識する。
- III 生産者・生活者を支える仕組みの教育**：政策的背景や、農業農村のイノベーションの必要性を「兵庫県農林水産行政論」と「政策立案演習」を行政実務者の指導により、体系的・有機的に履修することによって、生産者・生活者を支える仕組みを理解させる。
- IV 地域連携協定に基づく「社会実験型」の組織教育**：兵庫県篠山市を附属『農村』に見立て、地域連携協定に基づく「社会実験型」プロジェクトとして、「農業農村プロジェクト演習」、「農業農村インターンシップ」を行う。これにより、地域社会における行動作法や、計画的・建設的な議論の進め方等を体験し、問題解決の実践方法を身に付けるとともに、卒業研究へもつなげる。
- V コミュニケーションの充実による顔の見える教育手法**：篠山フィールドステーションを拠点に、食農コープ教育は行われる。この際に、ガイダンス、ワークショップ、インターゼミナール（大学生の生産者・生活者への研究発表）等を顔の見える教育の場として活用する。これらを通じて、学生が生産者・生活者とのコミュニケーションを深め、自らの問題解決への取組方を確認する。
- VI 食農コープ教育ナレッジマネジメントシステムの開発**：教員の食農コープ教育力の向上・教材作成を進めるために、ICTを活用した食農コープ教育ナレッジマネジメントシステムを開発する。これは、現場における教育力の向上及び問題解決につながる教育のための教材作成を行うものである。さらに、FD活動として、指導教員に対して、ファシリテーション手法の習得、英米のコープ教育の先進事例を分析する事例研究を取り入れた研修会を行う。このシステムにより、農学部教育の個性・特色を一層明確化するとともに、取組終了後も、食農コープ教育スキルの持続的な向上が期待できる。

I 志を高めるための「動機付け」	キャリアデザイン論 ボランティア活動への参加
II 生産者・生活者の経験知を学ぶ体験活動	農業農村フィールド演習
III 生産者・生活者を支える仕組みの教育	兵庫県農林水産行政論 政策立案演習
IV 地域連携協定に基づく「社会実験型」の組織教育	農業農村プロジェクト演習 農業農村インターンシップ
V コミュニケーションの充実による顔の見える教育	インターゼミナール 等 ケースメソッド授業の導入
VI 食農コープ教育ナレッジマネジメントシステムの開発	教育力の向上・教材作成 (ICT) FD研修会

食と農の現場と大学とのコミュニケーションの充実  
学生に多様なふれあいの場づくり

食農コープ教育を通じた実践型人材の育成